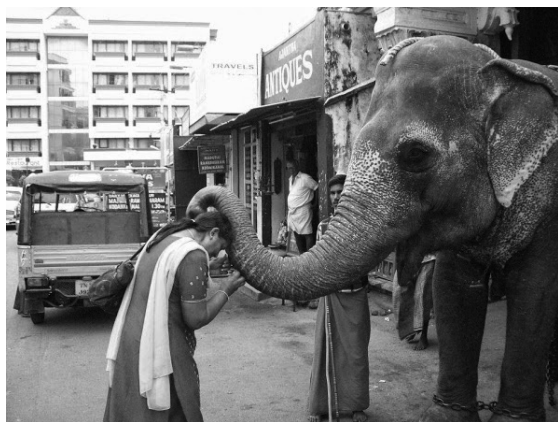


# 第1章

まずはこれだけは知っておこう！  
—インクレディブルインドア—



ゾウに祝福される

## Q01 「ゼロ」の発見以外でインドは 世界にどんな貢献をしているか？

我々はインド人に多くのものを負っている。インド人は我々に数の数え方を教えてくれた。それなしでは価値ある科学的発明は何もなされ得なかっただろう。

アルバート・アインシュタイン

インドは古代から学問の中心地であり続けてきた。インド亜大陸（インド、バングラデッシュ、パキスタン、ネパール、ブータンなどの国々を含むインド半島）は科学、建築、文学の分野で最前線にいたし、天文学、数秘学（占術の一つ）、算術、鉱物学、冶金学、論理学などの諸分野に優れ、世界に多大な貢献をしてきた。いくつかの発明は古くインド文明の時代にまでさかのぼることができる。インドが科学、技術やその他の領域で支配的地位を占めていたことは、考古学でも明らかになっている。

インドが発見したものとして、「ゼロ」はあまりにも有名だが、歴史を振り返ればそれ以外にも多くの分野で世界に貢献してきたことがわかる。

まず、なによりインドは一万年に及ぶ歴史の中で、一度も他の国を侵略したことがな

い。インド人は平和、非暴力、自由に多大な価値を認めており、その価値観はインド古来の文化と自然が育んだ。これ以上に貴い価値観があるだろうか……？

文明もインドが生んだものの一つである。今から5000年以上前、人類の多くが自然の中で暮らしていた時代に、インド人はインダス川流域に完璧な都市計画に基づいたハラッパー都市文明を築いていた。

さらに学問での貢献も大きい。世界最古の大学は紀元前700年にタッカシラ（現パキスタン北部タキシラ）で設立された。「大学」という概念もここから始まった。紀元前4世紀に建てられたナールンダ大学（現ビハール州）は、古代インドが教育分野で果たした最大の功績の一つである。

サンスクリット語は全てのヨーロッパ言語の母体であるが、サンスクリット語はソフトウェアに最も適した言語であると言われており、その点で現代社会をも支えている。また、チェスは世界中の頭脳を鍛えている。さらに、インドはヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教、シーク教の4つの宗教を生み、人々の精神生活に影響を与え続けている。

アリヤバタ（5世紀の天文・数学者）がゼロを発見したように、数学は昔からインドの得意分野だった。記数法はインドの発明であるし、代数、三角法、小数点の仕組み、微積分学もインド発祥である。円周率（パイ）の値を初めて算出したのは6世紀のブダヤナで、彼は「ピタゴラスの定理」という名で知られる概念もヨーロッパの数学者たちよりは

るかに早く発見した。二次方程式は11世紀のスリーダラチャルヤによるものである。

アーユルヴェエダは最古の医学体系であり、2500年前に医学の父であるチャラカが書物にまとめた。アーユルヴェエダは今日、その評価を取り戻しつつある。また、インドは外科手術でも進んでいた。2600年前、外科手術の父と呼ばれたスシュルタは、帝王切開、白内障、尿結石、骨折、義肢、さらに整形手術や脳手術といった複雑な外科手術まで行っており、当時100以上の外科手術器具を使用していた。麻酔は古代インドでよく知られた技術であった。解剖学、生理学、病因学、胎生学、消化作用、新陳代謝、遺伝学、免疫学に関する深い知識も、様々な文献の中に見受けられる。

ヨガと武術はインドで生まれ、その後アジアと世界に広がっていった。ボーディダルマ(菩提達磨、日本のダルマの起源とされる禅僧)はカンフーの初期の様式をアジアの他の国に教え、武術を広めた。

建築技術も特筆すべきものがある。世界最古の灌漑用貯水池とダムは紀元前5世紀にサウラシュトラ(現グジャラート州)に作られた。また、マウリヤ朝のチャンドラグプタの時代(紀元前4世紀〜3世紀頃)に「スタラシャナ」と呼ばれる美しい湖がライヴァタカの丘(現グジャラート州)の上に作られたという記録もある。

航海術もインダス川流域で6000年前に生まれた。航海術(Navigation)という言葉自体がサンスクリットの単語「NAVAGATHI」に由来する。海軍(Navy)という言葉もサ

ンスクリットの *“Zno”* から派生している。

このように、植民地化されるまでのインドは、数多くの偉大な発明や発見によって世界のあらゆる分野に貢献した。これら以外にもインドが過去に貢献してきたことはまだまだある。その長いリストに今後新しく加わることもたくさんあるだろう。例えば、多くの人口による消費市場の大きさとサービス部門は現在、世界経済に貢献している。中でも情報技術（IT）面でのインドの貢献は世界が認めるところだ。

今のインドは混雑した市場やコブラ使い、道路を歩く牛、というイメージばかりが強い。そのせいで、インドが成し遂げてきた多くの貢献が霞んでしまい、正当な評価を受けないのは非常に残念である。

### （ズームイン）

世界経済は第二次世界大戦以降めざましく成長した。一方、インドは政治の安定と経済改革を欠き、その結果、知識の発展、グローバル化、工業化に適応する余裕がなかった。しかし、今では購買力と製造技術の向上によって、世界GDPへの寄与が見込まれている。

## Q02 度重なる侵略と植民地支配は、インドにどのような影響を及ぼしたのか？

インドとその富、その豊かさを正当に取り引きすることなく手に入れたとしたら、それを貿易と呼べるだろうか。

出典不詳

侵略と植民地支配は、インドに多くの悪影響をもたらしたが、ここでは豊かな遺産となつた影響について考えてみたい。

紀元前326年のチャンドラグプタの時代にインドは一旦統一され、通商や経済、芸術や文学が隆盛を極め、世界の注目を集めた。その後インドはいくつかの王朝を経て、8世紀頃からアラブ系のムガル人や、好戦的なイスラム民族の侵略を繰り返し受けた。中でもムガル帝国は16世紀から3世紀以上にわたりインドの広域を統治したことで知られ、この時代にインドは経済的・社会的、また文化的に大きく発展した。

例えば、ムガル時代には貿易商の組合も作られるほど貿易が盛んで、経済の大きな部分を占め、この時代に、アラブやトルコに向かう新しい通商路が開けた。また、統治法が発